

## 豊かな自然と歴史ロマンの街・山梨市

新宿から約1時間30分。JR中央線を走る特急列車は甲府盆地の東に位置する山梨市駅に到着する。駅に降り立つと北側に奥秩父に連なる山々が続き、南側には富士山を望むことができる。

山梨市の人口は約3万8千人。笛吹川、重川、日川といった河川が造りだした扇状地の上に市域が広がる。昭和30年代以降、扇状地の上という地の利をいかした果樹栽培が盛んで、同市は全国有数のモモ、ブドウの産地として知られている。

また、同市は甲州と鎌倉、秩父、江戸を結んだ鎌倉街道、秩父往還、青梅街道の結節点であり、戦国時代には武田一族が治める地域であった。そして、明治、大正、昭和と活躍した実業家、初代根津嘉一郎はこの地の出身であり、嘉一郎自身も建築に関与したその実家は国の登録文化財として現存している。



初代根津嘉一郎の実家

## 清流を取り戻した野川

清流で知られる笛吹川の水を取り入れ、ヤマメが住むほどの美しい流れを持っていた「せぎ」も都市化の中で汚染が進んだが、山梨市は昭和52年から峡東流域下水道に接続することで下水道整備を進め、徐々に「せぎ」の水環境も戻り始めた。

下水道整備が進む中、一層の水環境の回復と地域の環境の改善を図っていこうという住民による活動が平成17年に山梨市下神内川2区において始まった。同地域の人々は専門家の協力も仰ぎながら独自に地域研究を行い、「せぎ」と地域に眠る道祖神といった石仏、果樹園が織り成す景観を組み合わせた総合的なまちづくりプランを市当局へ提案。これを受けた市当局は検討の結果、国の「まちづくり交付金事業」として申請。平成18年に同事業として採択された。その後、住民団体「下神内川まちづくりプロジェクト」が発足、「かのがわ古道・かのがわ広場」整備事業としてまちづくりが進められ、市当局と地域住民が一緒になり「清流」復活を中心に据えた事業が精力的に進められた。現在、整備事業は一段落。今後は、次代を担う地域の子供たちの積極的な参加を促すことで、今ある景観と協働で培われた地域住民同士や行政など人々のつながりを後世に引きついでいくことを目指している。



地域を流れる「せぎ」（左）と地域の歴史遺産の石仏